

2 健康と環境

目 標

- ・身体には、環境に対してある程度まで適応能力があり、適応能力を超えた環境は、健康に影響を及ぼすことがあること、また、快適で能率のよい生活を送るための温度、湿度や明るさには一定の範囲があることを理解する。
- ・空気や飲料水は、健康と密接な関わりがあること、また、空気や飲料水を衛生的に保つには、基準に適合するよう管理する必要があることを理解する。
- ・人間の生活によって生じた廃棄物は、環境の保全に十分配慮し、環境を汚染しないように衛生的に処理する必要があることを理解する。

評価規準

（国立教育政策研究所の資料を基に作成）

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
健康と環境について、 <ul style="list-style-type: none"> ・健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 ・課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 	健康と環境について、 <ul style="list-style-type: none"> ・健康に関する資料などで調べたことを基に課題や解決の方法を見つけたり、選んだりするなどして、それらを説明している。 ・学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つけたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。 	以下のことについて、理解したことを言ったり、書き出したりしている。 <ul style="list-style-type: none"> ・身体的环境に対する適応能力や至適範囲 ・空気や飲料水の衛生的管理 ・生活に伴う廃棄物の衛生的管理

学習過程と学習内容

時間	学習項目	学習内容	教科書ページ
第1時	環境の変化と適応能力	<ul style="list-style-type: none"> ・身体には、環境の変化に対応して諸器官を働かせてその変化に対応する能力があること。 ・身体の適応能力を超えた環境は、健康に影響を及ぼすことがあること。 	32～33
第2時	快適な環境の条件	<ul style="list-style-type: none"> ・暑さ・寒さの感じ方には、気温、湿度、気流が関係しており、気温には活動するのに最も適した至適範囲があること。 ・学習や作業をするときには、その種類に応じた適切な明るさが必要であること。 	34～35
第3時	室内の空気の条件	<ul style="list-style-type: none"> ・二酸化炭素は、人体の呼吸や物質の燃焼によって発生すること、そのため、室内の空気の汚れを知るための指標となること。 ・一酸化炭素は、物質の不完全燃焼によって発生し、吸入すると一酸化炭素中毒を起こすこと、そのために基準が決められていること。 ・室内の空気をきれいに保つためには、換気が必要であること。 	36～37
第4時	水の利用と確保	<ul style="list-style-type: none"> ・水は、人間の生命の維持や健康、生活のうえで重要な役割を果たしていること。 ・飲料水の水質には一定の基準が設けられており、水道施設を設けて衛生的な水を確保していること、また、安全でおいしい水の供給や水不足への対策など、さまざまな取り組みが進められていること。 	38～39
第5時	し尿・生活排水の処理	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の生活に伴って生じるし尿や生活排水は、衛生的にかつ自然環境を汚染しないように処理されなければならないこと、また、これらの処理を巡っては、さまざまな問題があること。 	40～41
第6時	ごみの処理	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の生活に伴って生じるごみは、衛生的にかつ自然環境を汚染しないように処理されなければならないこと、また、これらの処理を巡っては、さまざまな問題があること。 ・ごみの問題を解決するためには、ごみの減量や分別、リサイクルを推進していくことが必要であること。 	42～43
第7時	環境の汚染と保全	<ul style="list-style-type: none"> ・日本では、急激な産業の発展の中で、大量の汚染物質が排出された結果、公害による被害が全国各地で問題になったこと。 ・現在では、さまざまな環境問題が起こっており、生活や健康に悪影響をもたらすことが心配されていること。 	44～45
第8時		※この1時間は、発展的な学習（教科書p.46～47）に充てたり、健康と環境に関する実習的な活動や、探究的な学習に充てたりする。	